

留学生就職支援へ連携

4大学と
市が協定 日本語やキャリア教育

横浜市内の大学に通う外国人留学生の就職を支援しようとして、市と横浜国立大学、横浜市立大学、神奈川大学、関東学院大学が15日、同市西区で連携協定を結んだ。

各大学は市内の経済団体などとも連携し、各大学の留学生約1400人に就職同

き上げることを目指す。横浜国大は従来の日本語プログラムを活用しつつ、受講機会を増やす。同市立大は市内企業での実務体験や日本の企業文化などを教えるキャリア教育を実施。企業向けには留学生の受け入れ事例などを紹介する。神奈川大、関東学院大はプ

ログラムの開発などに携わる。この取り組みは今後市内の他大学などにも広める考え。

横浜国立大は「大学単独での活動には限界があった。各団体と連携し、留学生が就職しやすい環境づくりを進めたい」としている。

(松村 祐介)

協定書に署名する大学の学長ら＝横浜市西区



日本学生支援機構の調査では、国内で就職を希望する留学生は約65%いるが、企業に対する情報不足に加え、大学の企業側への働きかけの難しさなどが原因で就職できたのは約30%にとどまる。同プログラムでは5年後の就職率を50%に引